

暑い夏の夜をいろどる 岡山県下最大の盆踊り

踊りましょう

備中たかはし松山踊りへ行きましょう



主催：日中・岡山 青年部

高梁の夏を彩る備中松山踊りは、毎年8月14日～16日の3日間、駅前大通りで開催されています。期間中は、数万人の人々で踊り一色となり、その規模は、県下最大を誇っています。

踊りの歴史は古く、江戸時代の初め（1648年）時の備中松山藩主、水谷勝隆の時代から踊り始めたもので、これを「地踊り」と呼んでいます。

また、江戸時代中期（1744年）時の藩主、板倉勝澄が始めた武士の踊りは、「仕組み踊り」と呼ばれています。この「地踊り」と「仕組み踊り」併せて今日では、「備中松山踊り」となっています。

「ヤトサ」は、昭和の初期に郡部から移入された踊りで、そのテンポの早さが人々に受け、今では、完全に備中松山踊りになくてはならない踊りとなっています

《参加要項》申し込みが必要

と き：2006年8月14日（月）

行き先：伯備線高梁 駅前通り

集 合：午後6時 岡山大学図書館前

参加費：ガソリン代として300円

（車を提供くださる人は不要。弁当は各自持参のこと）

車に乗り合わせて行きます。

自動車を提供できる方は、お申し出ください。

【申し込み先】

日中友好協会岡山支部 電：090-7542-6139

/E・メール zeshan@m9.dion.ne.jp

倉敷支部第2回総会開く

倉敷支部第2回総会は、去る七月九日（日）午後、倉敷労働会館で開催されました。

総会は今年も二胡演奏のオープニングで和やかに進められました。その後議案書に基づいて活動報告から決算、予算、活動方針まで一括提案され討議しましたが、特段の問題なく承認されました。

討議は全員が自己紹介をかねて発言しました。質問としては、岡山支部から倉敷へ移動したことについての会費の質問等で、事務局が答弁して了承され、

その他（一）結成記念旅行が西安市長安区への表敬訪問を行い、又、

日本語学部中国大学生との会食交流が出来たことが、一般観光旅行にない経験でよかった。

（二）社会主義といわれるものに物乞いがいたのが不思議だった。

（三）友好運動のカギは中国をよく知ることだ。

（四）又早い機会に中国へ行ったなどの意見が出されました。最後に役員選出については、結成後間もないことなので、今回は留任を確認し閉会しました。

尚、本部よりメッセージが届いた他、岡山支部の澤山副理事長が参加され挨拶をいただきました。



岡山支部

2006年度

《新たな活動始まる》

新理事が任務を分担

総会で新年度の理事が選出されて、新たな活動を開始しました。倉敷支部の発足にともない理事が減員となりましたが、新たな理事が加わり新しい出発をいたしました。理事会で総合的な活動計画が論議され、任務の分担が決まりました。順次その活動の内容が発表されるでしょう。以下、役割分担をお知らせします。

- 支部長 宇野武夫「岡山支部支部長」
- 理事長 竹内和夫「財政・平和活動・事務局局長兼務」
- 副理事長 澤山博一「中国語講座・料理教室・宣伝部・日本語教室」
- 副理事長 小林軍治「孤児訴訟支援・日本語教室・県西部支部結成」

- 理事 谷山 源 「留学生支援」
- 理事 真田紀子 「宣伝部」
- 理事 青木正美 「太極拳講習会」
- 理事 費 祥英 「青年部」
- 理事 岡崎政憲 「青年部」
- 理事 三宅美美子 「料理教室」
- 理事 正司金一 「青年部」
- 理事 竹内袈裟行 「宣伝部」
- 理事 (ホームページ)「
- 理事 難波恵司 「宣伝部」
- 理事 (ホームページ) 在南京

日中友好協会
おひかやま
題字 藤原田 親
No. 484
2006/08/05
日中友好新聞
発行所 日本中国友好協会
〒111-0033 東京都千代田区千代田2-1-3
日中ビル5F
電話 03(5439)3140(TEL)
FAX 03(5439)2141
http://www.jcfc.or.jp
E-mail: jcfc@jcfc.or.jp
URL: 00119-1-2119
日中友好協会 岡山支部
〒713-0034 岡山市北区下伊福
西町1-58 民生会館1F
TEL・FAX (086) 258-1808
日中友好協会 倉敷支部
〒713-0031 倉敷市福町町通23461-41
TEL・FAX (086) 445-7860

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.web.infoseek.co.jp
新・メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp
http://www.rzhong.or.jp

7月14日、神戸地裁で兵庫訴訟が結審しました。前日の13日に、結審前全国統一行動が実施されました。内容は以下の三点です。

神戸訴訟の結審前全国統一行動に参加

神戸地裁 判決は12月1日

原告団全国連絡会

第九回幹事会

午後1時より兵庫県農業会館で、北は北海道の札幌、南は九州の鹿児島と全国15地区の代表約50人が参加して開かれました。

清水弁護士から、以下の報告がありました

- (1)原告数は全体で2192人、署名数1,038,824筆と当初の予想を越える数となった。
- (2)大阪では敗訴したが、全国の新聞社が「国は中国残留孤児を当然救済すべきである」といった社説を掲げるなど、国民世論が大阪判決を批判した。
- (3)今年に入って、2月の「残留婦人」の判決、6月の「ミニカ移民」の判決は、いずれも賠償請求は退けたが、国の責任・政策の不備を認める内容である。
- (4)国は現在「孤児」訴訟でも時効(権利の法廷存続期間の20年を過ぎている)を持ち出している。
- (5)最後に、政治解決を求めることも大事であるが、国の責任を問う判決がなければ、国に政策の転換を求めることは困難である。あくまでも勝利判決を目指してがんばろうと訴えた。

デモ行進へ

会議終了後の4時に、元町1丁目の商店街入り口に集合しました。デモには約300人が参加し、『残留孤児の人権を返せ!』『日本国民として平等に扱え!』

結審前夜集会

五時半から神戸市立婦人会館で、中国残留孤児国家賠償請求訴訟結審前夜集会が約250人の参加で開催されました。

兵庫弁護士団長の宗藤さんの力強い開会のあいさつで始まり、兵庫県会議員の紹介と連帯のあいさつがありました。

戦争反対!もう棄民は許さないぞ!」などのシュプレヒコールを叫びながら商店街を通り、裁判所前まで約1時間行進しました。裁判所前では、裁判所は私たちの叫びを聞き正しい判決をせよ!」などと訴えました。

続いて、聖山勲氏(ハンセン氏病違憲国家賠償訴訟・全国原告団協議会副会長)より、ハンセン氏病の歴史と現状及び裁判についての講演がありました。聖山さんは「みなさんが私たちのたたかいに触発されて、訴訟に立ち上がったことを大変うれしく思っています。」

姜波先生による中国事情 ①

就職の氷河期を乗り越えよう

中国ではここ4、5年4月になると一番話題になるのはなんとといっても新卒者の就職問題だ。7月の卒業を控えて、新卒者にとって順調に就職できるかどうかは一番の関心事だ。

1999年に中国は高等教育機関(4年制大学と専門学校含む)への進学率を一律に56%に引き上げた。(大雑把な国際比較では、イギリス(95年)65.5%、アメリカ(96年)46.9%、日本(98年)48.9%)進学率の大幅拡大は2002年には人材の供給過剰の結果となった。

過去4年間新卒の未就職者数は、2002年37万人、2003年52万人、2004年69万人、2005年79万人と年々増え、就職の氷河期に入っていることが分かる。事態の深刻さを受けて大学教育のあり方を問う議論が高まっているが、この現実を目の前に学生たちがどのように就職難を乗り越えようとしているのかを見てみたい。

複数の資格を持つていけば就職の道は広がるだろう。

蘇州大学2年生李力(財務管理専攻)さんは、大学院に進学するより就職を優先に考えている。英語6級(大学院卒レベル)、通訳とビジネス英語の資格、コンピュータと登録会計士の資格を取ろうとして日夜勉強に励んでいる。

幸運は備えある人のところにやってくる。

4回生王寒さんと丁侠さん(商學院は切磋琢磨して企業管理のコンサルタント会社を創業しよう)と準備している。この目標に向けて3年生終了時点から、2人は積極的に企業の需要などを含めた市場調査を行い多くの資料を集めてきた。そして生徒会のメンバーとして大いに自分を鍛えたり。現時点では2人の起業を支援すると幾つかの会社が名乗り出ている。

河北邢台出身の袁さん(4回生)は両親の収入が低く、家計が苦しい

ているとともに今後、差別撤廃、人権確立のためにともに運動をすすめるよう」と話されました。(以下略・時間の関係で途中退席しました)

なお、これらの一連の行動に岡山県から原告団3人(高杉、大森、高見)弁護士5人(奥津、則武、大熊、高木、上田)支える会から小林が参加しました。香川県からは、原告と支援者8人が参加しました。

(小林)



(2005年広東省主催の新卒就職フェア)

め、入学時の所持金2000円だけ、親からは授業料等を支払う力がないと言われた。

アルバイトをしながらの勉学が始まった袁さんは、家で安定した家庭教師の仕事より、あえて蘇州工業センター内にある大企業の市場調査員の仕事を選んだ。広告デザインを専攻した彼女は自分の将来の就職のためにも、実際の企業活動を知ることが重要だと分かっていたからだ。

平日彼女は勉学に励み、週末になると取引先や関係企業を駆け巡ったり、街頭に立ってアンケート調査をしたりした。相手にされないこともしばしばあったが、彼女は歯を食いしばって我慢し、人との接し方を身につけ、人生経験など多くのことを学ん

倉敷支部結成記念 中国の旅 紀行文 ⑤

わたしが見た

感じた 考えた

二つの場面

大森久雄



盧溝橋のあたりは大きく変わっていた。2年前の2004年8月に訪ねたときには、橋の東には古い村があった。ぬかるみを馬車が往き来していた。

今度はそのなくなり、城壁、城門と広場ができあがり、橋から真つすぐ石を敷いた広い道路が中国人抗日記念館へ通じていた。橋を渡った西側にひしめていたみやげ物店も東側の広場の一角に整然と並んでいた。

橋の欄干に手を触れさせないためか金属製の手すりが付け加えられている。それらすべては、2008年北京オリンピック用の観光地整備の仕上げのようだ。民国期の野趣あふれる村の風景が消えたのは惜しい。

記念館では、抗日戦争勝利60年記念の展示があった。これまでのものは数段整理され見やすかった。第一室へ入ったところで、全行程ガイドの費陽さんが実に念のこもった説明をされた。耳は聞きながら、部屋の片隅の楊靖宇將軍の最期と八女投江の絵を見詰めていた。それぞれの人の死に思いをはせ心は重かった。

人民解放軍の若い兵士の一団が来た。案内嬢はハンドマイクを使い賢明に説明していた。私の後をあとさり通り過ぎた。案外だった。

この二つの場面の前では、少し立ち止まってもよいのではないかなどと思った。

と李先生は就職模擬体験を企画した意図を語っている。

就職環境が厳しい中国においては、個人が日々たゆまぬ努力し続け、積極的に挑戦し、自らの力でチャンスをつかみ取ることが肝心だ。

(川崎医療福祉大学 教授・社会学)

次回の新聞送付作業は

八月十一日(金)午後1時半、民主会館2階で行ないます。

前回お手伝いくださった方です

林内山井 小竹澤坪